



ニューズレターの概要

このニューズレターは、平成27年度に開催された「全国生涯学習ネットワークフォーラム」の後継事業として、震災からの復旧・復興や地域課題に取り組んでいる県内の関係者等の情報を共有し「学びをひろげ、つなげる、いかす」ため、年に2回発行しています。

今回は「富岡町3.11を語る会」の活動や「生涯学習事業の企画のヒント!」を掲載しました。東日本大震災から6年目を迎え、震災の風化防止や防災について考える講座、原子力災害について考える講座を企画してみたいかがでしょうか。また、事業企画のヒントを掲載しましたので、参考にしてください。

伝えたい

NPO法人
富岡町3.11を語る会
代表 青木 淑子 氏

富岡のことを知ってほしい
更には福島のことを知ってほしい

東日本大震災、原子力災害を忘れてはいけない、この災害は自然災害ではなく、人災である。二度と同じ過ちを繰り返してはならない。富岡町民自らの体験を、自らの声で、この事実を語り継がなければならぬ。

東日本大震災、原発事故がもたらした事実を語り、伝えることが大切である。



代表 青木 淑子氏

語り人(かたりべ)の活動

富岡町3.11を語る会に所属する「語り人(かたりべ)」は現在、26名で全員が富岡町民である。目的は聞く人に「災害の真実」を伝え、正しい理解と判断を生み出すこと。富岡町の現状、町民の暮らしと心情、さらには復興への思いを県内外、国外の方々に語り伝えていこうと活動を始めた。語り人それぞれが自分の言葉で「震災時の様子、避難所での体験、現状、今後の課題や未来に向

けて」を口演(こうえん)している。

語り人の活動場所は三つ、一つ目は「富岡ツアー(富岡町に入り案内、説明をしながら話をする)」。二つ目は、「郡山市内(桜風舎)の会場」。三つ目は「震災の話を知りたい」という依頼に応じて「県内外出張」を行っている。

話を聞きに来られる方の職業や年齢に合わせて語り人も人選をしている。民生員の方の研修であれば、語り人の中から民生員経験者、学校の生徒対象であれば教員経験者を派遣する工夫をしている。

平成28年4月から12月までの実績として語り人の話を「5,111人」の方に聞いていただいた。1ヶ月平均15団体であり、県外から民生員、自治会、防災関係(消防)、教員研修、教育旅行の生徒たち等の依頼があった。

「語り人」それぞれの思い

語り人としての約束は二つ。一つ目は行政批判をしないこと。二つ目は時間を守ること。決められた時間は様々だが、その中で伝えたい内容のポイントを絞って話をする。

この約束を守り、語り人それぞれが震災時の体験や避難生活、自分自身のこと、家族の事、これからのこと等、自分の思いや考えを自分の言葉で伝えている。

また、語り人の一人は、「自分の体験や話を真剣に聞いてもらい、自

分の思いを分かってもらえた。聞いていただいた人と一緒に涙を流した。このことが生きる喜びとなり、元気が出た。」と話したという。

語り人の話は実体験であり、重みがある。震災当時の実情や心情、不安、苦しみ、悩みを聞く事により、話を聞いた人一人一人の意識が変わるといふ。「福島の大震災は宮城、岩手とは全く違い、ビッグパレットでの避難生活の様子も聞く事ができ、大変参考になった。」という感想が寄せられた。



「語り人口演」に真剣に耳を傾ける受講者

中・高校に事実を知ってほしい

「『語り人』の口演依頼は県外の団体や学習旅行での生徒が多い。しかし、県内の中・高校生への口演は少ない。多くの県内の中・高校生や若い人たちに、もっと震災の事実を知ってほしい。」と青木氏は話す。

私たち一人一人が、東日本大震災や原子力災害について考え、真実を伝えていかなければならないと、取材を通して改めて感じた。

語り人 問い合わせ先

富岡町3.11を語る会

電話 024(955)6760

生涯学習事業企画のヒント！ 桜の聖母短期大学 准教授 三瓶 千香子 氏

生涯学習講座等を企画、立案することは事業者にとって、どのような内容にするか悩むことが多い。事業の企画のヒントを求め、平成

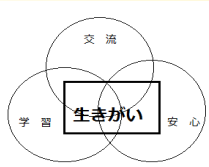
28年1月22日にアクティブシニアセンターアオウゼで開催された三瓶准教授の講義に参加した。



三瓶 千香子 氏

「生きがい」を見つけていくことで地域活性化につながる

生涯学習には3つの要素がある。「学習」「交流」「安心」。この三つを結びつけると「生きがい」が生まれる。



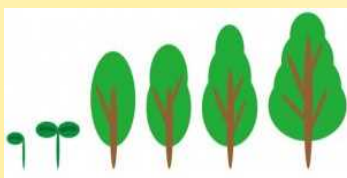
「生きがい」は生きる目標である。突然「生きがい」を見つけたと思ってもなかなか難しい。そこで「生きがい」見つけるためには、生涯学習の3つの要素のどこから始めても良い。

例えば、「学習」。関心のある分野

を学習すると、自分の興味がある分野が分かり、情報の「取捨選択の軸」ができるようになる。更に興味・関心のある講座に積極的に参加するようになり、同じ興味・関心・悩みのある人が集えば人との交流が生まれ、仲間ができる。仲間がいることで安心して学べる場所、自分の居場所ができる。

この3つの要素が融合する事によって、一人一人が「生きがい」を持つことができる。共通の学習を通して多くの人が交流することで地域の活性化につながっていく。

この「生きがい」づくりをするきっかけが、生涯学習講座であり、種まきである。どんな種まきが効果的であろうか。



生涯学習講座を企画する

何もないとことから、新しい企画をすることはなかなか難しい。そこで今まで実施した講座をいくつかついで今度の実施した講座をいくつかついでみる。また、講師でも「あの人とこの人をつなぐと、面白い企画ができそうだ。」等、講師それぞれ専門性や良さを生かした「いいとこどり」で考えてみると企画の立案ができそうだ。

更に講座がその地域でしかできない内容であれば、その地域の良さや魅力を知ることができるといい機会となる。

企画は「文殊の知恵」で！

この講義では数人のグループになり、講師や企画の「いいとこどり」を考えながら企画立案をした。一人ではなかなか良いアイデアが浮べないが数人で、いろいろな考えを出し合い話し合った。そのため、それぞれのグループで面白い企画ができ、まさに「三人寄れば文殊の知恵」



グループになり、新しい講座を考える参加者たち

である。一人で悩まず、数人で考えれば面白いアイデアが生まれる。

グループでは、「自然観察会」と「写真講座」の「いいとこどり」意識しながら考え、意見を出し合った。

午前は講師から植物や昆虫等の自然観察しながら説明を受け、話を聞きながら気に入った植物等の写真を撮る。午後は撮った写真について専門的な指導を受けたり、参加者同士の写真鑑賞会等を行ったりする。自然観察会での知識、写真撮影の楽しみを仲間と共有することができるのではない。このような話し合いが

あり、一つの講座を立案することができた。その後、各グループで立案した企画をポスターに描き、発表をした。どの班も、受講してみたいコーナーが溢れる魅力ある企画ができあがった。

生涯学習は「楽しむこと」

最後に、三瓶氏に「生涯学習において大事なことは何か」を、尋ねてみた。

「生涯学習は自分が楽しむこと。誰かに強要されたり、他人に言われて行う学習ではない。自主的に選択し、自主的に決め、自主的に学ぶ。自主的な学びだからこそ、意識の変わりがあって、自己実現ができる。『自分で』が生涯学習の原則であり、『楽しみながら学習する』からこそ長続きする。」

生涯学習は『生きがい』であり、学びである。自分の『学び』を地域の人たちに還元することができれば、地域の活性化につながり、まちづくり、更には地域創生へとつながる。」と、教えていただいた。

「生きがい」は人それぞれである。事業者は住民が「学んでみたい、やってみたい、な。」と思えるような魅力ある講座の立案をしなければならぬ。そのためにも、住民の声を聞き、住民のニーズにあった講座を考えていく必要がある。